



クレアション

création

なぜ、男性は **ネクタイ** で

NEW! 女性は **ハイヒール** なの？

「ジェンダー平等」ってご存知ですか？昨年の流行語大賞で
トップ10入りしました。身近な身だしなみや服装を切り口に、
一緒にジェンダー平等について考えてみませんか？



NPO 法人 SEAN 理事長
講師 小川 真知子 さん

《講師プロフィール》

新潟県生まれ。高校講師を経て、1994年より
兵庫県立女性センター（現男女共同参画センタ
ー）の情報アドバイザー、1999年から2013年
まで西宮市男女共同参画センターの専門職員
として勤務後、現在はNPO法人SEAN（シーン）
理事長、大阪市立大学でジェンダー論を担当

- ◆日時◆ 3月20日（日）
午後2時～午後4時
- ◆対象◆ テーマに関心のある方
- ◆定員◆ 申込先着30名
- ◆保育◆ 先着6名
（2歳～就学前児童）
※保育締切 3月13日（日）
※傷害保険料 100円
（令和3年度内有効）



一緒に考えましょう
～男性のチカラ、女性の想いを活かした災害対応～

近年、集中豪雨や大型台風など甚大な被害をもたらす自然災害に見舞われることが多くなったと感じませんか。

お住まいの地域のハザードマップや避難所の確認、非常時持出品の準備などの事前の備えが重要となります。

過去の大地震では、避難所において男女別の更衣室や物干し場、授乳室がないなど、プライバシー保護の必要性や男女のニーズの違いを共有できず、多くの問題が生じました。どうしてでしょうか。

ひとつには、避難所を運営する際のさまざまな決めごとをする場に、女性が少なかったからだと言われています。

過去の教訓から、令和2年5月に内閣府は「災害対応力を強化する女性の視点～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～」を新たに策定しました。この中で、平常時からの男女共同参画の推進が防災・復興の基礎となること、女性は防災・復興の「主体的な担い手」であることなどが方針として挙げられています。

岸和田市でも、第4期きしわだ男女共同参画推進プランにおいて、「防災の分野における男女共同参画の推進」を明記し、避難所配備職員を男女ペアで選ぶようにしています。

避難所は小さなコミュニティとなります。また非常時には平常時の課題が顕在化します。

でも、平常時にできないことは非常時にはできませんよね。非常時であっても、誰もが自分らしく安心して過ごせるように、日ごろから、さまざまな立場の人が意見を出し合い、必要な備えをしておくことが大切です。

地域活動に積極的に参加し、性別に関わらず多様な意見が反映される環境をつくるのが、地域をより良いものにし、防災力の強化にもつながります。

いまから行動を起こし、災害に備えましょう。

